

【全国実施分】学力調査結果の分析による具体的改善策 中学校3年

1 教科に関する調査

《平均正答率全国比》

R 5年度（昨年度）結果	R 6年度（今年度）結果
国 語	国 語
106	105
数 学	数 学
112	95
英 語	
110	

	全国平均正答率を下回った問題（平均正答率の低い問題）	考えられる要因
国語	<p>①本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する問題</p> <p>②表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題</p>	<p>①条件と本文を照らし合わせて、必要な情報だけを読み取ることができていない。</p> <p>②情景描写や表現技法などの表現の工夫について理解し、活用できていない。</p>
数学	<p>① 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める</p> <p>② 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する</p>	<p>① 簡単な場合の確率の求め方が理解できていない。</p> <p>② 筋道を立てて考えること、または証明の仕方が理解できていない。</p>

2 生徒質問紙調査

質問事項		R 5年度結果	R 6年度結果
教科の勉強は好きですか。	国語	68.4%	93.8%
	数学	42.1%	31.3%
	理科		75.0%
教科の授業の内容はよく分かりますか。	国語	84.2%	31.3%
	算数	73.7%	56.3%
	理科		
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、 新たな考え方に気付いたり することができていますか。		84.2%	81.3%

3 具体的改善策

- 始業開始5分間のAIドリル(キュビナ)でつけたい力を明確にした基礎基本および弱点分野の定着・向上に向けた取り組む。
- 帯時間や補充学習、家庭学習を通じて、副教材ワーク・データベース、新研究、中3学力テスト・校内実力テスト・高校入試問題過去問等に計画的・継続的・効果的(基礎・活用)に取り組む。

	授業改善	学習定着状況の把握	補充学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明文の学習のときに、必要な情報に線を引いてペア等で確認する活動を行う。繰り返し行うことで、要約の手順が定着するようにする。 ○ 表現の工夫として情景描写等について学習し、それを生かして他の作品を読んだり、文章を書いたりして活用問題をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の問題で練習をし、データベースの問題でさらに定着を図り、テスト問題で状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ や放課後学習、家庭学習用課題(新研究等)を通じて弱点補強や繰り返し学習による定着を行う。学力テスト・実力テスト・高校入試過去問を通じて応用力・活用力の向上につなげる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業始めのキュビナ学習等を通じて、基礎・基本の復習。 ○ 基礎・基本事項を根拠として証明や説明等に活用する練習や学びあい学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の問題やワーク、データベース、テスト問題で把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 帯時間や放課後学習、家庭学習用課題(新研究、学力・実力テスト・高校入試過去問等)を通じて弱点補強・応用力・活用力の向上につなげる。